

令和4年度 坂戸市地域包括支援センター 第三者評価 報告書（概要版）

1. 第三者評価の概要

(1) アンケート調査

センター職員、利用者、民生委員、介護支援専門員を対象にアンケート調査を実施しました。

(2) 自己評価表

各センターが日々の取り組みを振り返り、取組状況を把握しました。

(3) 訪問調査の実施

評価者が各センターを訪問し、事業プロフィールや自己評価表に基づいて事業所の良い点、改善点を見つけ出すヒアリングを実施しました。

2. 今年度の評価結果

各センターが新型コロナウイルスの蔓延による予測不可能な中で、市・センター・関係機関・地域の方と連携規模を拡大しながら進めてきた様子が確認できました。一方で、コロナ環境下で見えてきたもの、多様化する福祉ニーズの増加や地域福祉へのさらなる貢献を考え、課題が見えてまいりました。

【各センターで共通する課題】

- ・センターの認知度向上に向けた取り組みの実施
- ・センター職員の計画的な育成
- ・介護分野の垣根を超えた多様な主体との連携

【将来に向けての課題点】

- ・実施事業の量的取り組みから質的取り組みへの転換
- ・地域包括支援センター機能の確認と役割階層の整理
- ・地域包括ケアシステムを構成する各機能の取りつなぎ役の存在

3. 前回調査との比較

(1) アンケート調査における視点

どの対象からも高評価を得ている点を確認できました。対応の具体的かつ個別的な中身のコメントが増えており、今後は質的向上への取り組みの転換が問われていくことが推察されます。

(2) 事業所調査における視点

前回からの課題の積み残し事項に、センター間の連携があります。

また、会議のあり方や情報インフラの活用等の見直し、会議に挙げられている情報の鮮度・中身の質を問うなど、取り組みの質に関して、必要に応じて改善していくことを期待します。

(3) 全体講評

前回評価よりアンケートやヒアリングから大きく前進している点を確認できました。特に、コロナ環境下での創意工夫の様々な取り組みは高評価を得ています。

一方、役割分担と各担当者とのつなぎ役（人・機関窓口）を整理された上でセンター業務を推進していくことが望まれます。